

## 『魚の経済学〈第2版〉』

### 〔概要〕

天然資源に直接働きかける漁業という産業や魚介類を食べる消費者の行為を、経済学的なものの考え方・見方でもってとらえた経済書。2008年8月に出版した初版に東日本大震災についての章を加筆するとともに全章にわたって統計データをアップデートした。全13章からなり、漁業は市場メカニズムに任せておくとコモンズの悲劇が生じること、遊漁（遊び）は人気があるのに漁業者は減少していること、日本の200カイリ排他的経済水域は大きいこと、漁業はエネルギー多消費産業であること、産地偽装が起こるのは消費者の逆選択によること、食料自給率目標は漁業においては矛盾があること、漁業と環境、水産物貿易などの課題について論じている。